令和８年 11月２日	農作物病害虫発生予報 11月	山口県病害虫防除所

～目　次～

Ⅰ　予報の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
Ⅱ　予報
【主要病害虫】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
【その他の病害虫】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
Ⅲ　参考(予報の見方､気象予報)　・・・・・・・・・・・・・・・・・　10

Ⅰ　予報の概要

農作物名	病害虫名	予想発生量	現況	
			平年比	前年比
キャベツ	黒腐病	やや多	平年並	前年並
	コナガ	平年並	平年並	少
イチゴ	うどんこ病	平年並	平年並	多
	アブラムシ類	平年並	やや少	少
	ハダニ類	やや少	少	少
野菜全般	ハスモンヨトウ	やや多	やや多	少
	オオタバコガ	やや多	やや多	前年並
	シロイチモジヨトウ	平年並	平年並	少

お問い合わせ先
山口県農林総合技術センター(山口県病害虫防除所)
TEL(0835)28-1211(代)
FAX(0835)38-4115
E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp

Ⅱ　予報

キャベツ

1　黒腐病

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	平年並	前年並	発病初期

(2)　予報の根拠

ア　10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%(平年0.9%)、発病株率0%(平年0.0%)、発病度0(平年0.0)で平年並であった（±）。

イ　気象予報では、降水量は平年並か多い（＋）。

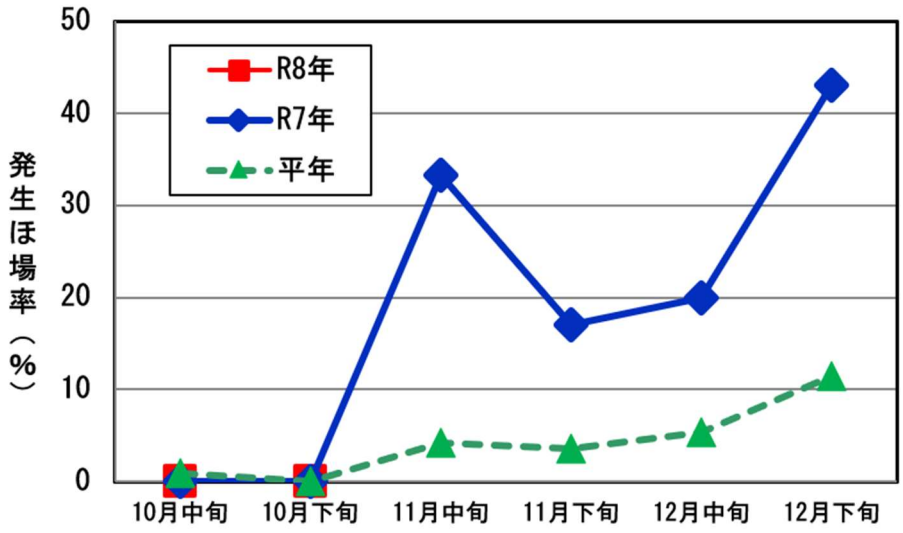
(3)　防除対策

＜耕種的防除等＞

排水溝を設置するなど、排水対策を徹底する。

＜防除のポイント＞

強風や大雨の後の防除と害虫の防除を徹底する。



キャベツ黒腐病の発生推移

2　コナガ

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	少	若齢幼虫期

(2)　予報の根拠

ア　10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率33.3%（平年26.7%）、10株当たり虫数0.1頭（平年0.2頭）で平年並であった（±）。

イ　気象予報では、気温は高い、降水量は平年並か多い（±）

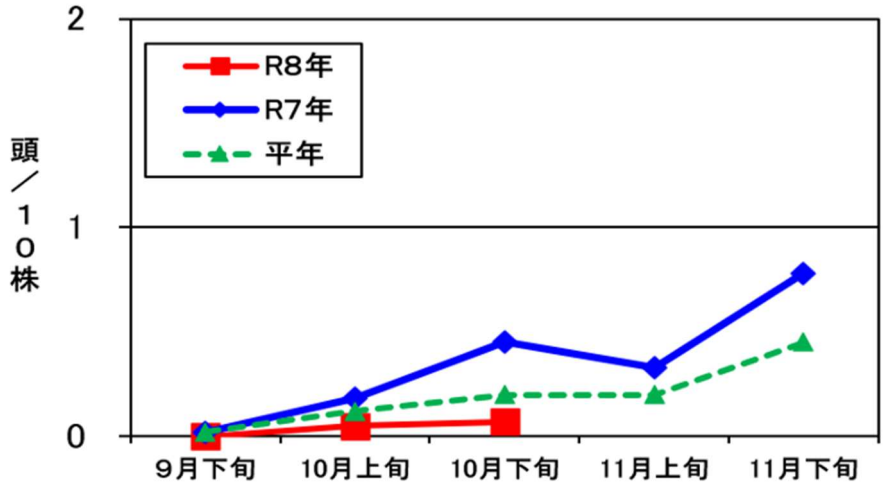
(3)　防除対策

＜防除のポイント＞

ア　ほ場をよく観察し、発生が認められた場合には直ちに防除を行う。

イ　多くの薬剤に抵抗性が発達しており、特に中齢から老齢幼虫は薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底する。

ウ　薬剤耐性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



キャベツのコナガの発生推移

イチゴ

1　うどんこ病

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	多	発病前または発病初期

(2)　予報の根拠

10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率10.0%(平年9.5%)、発病株率0.4%(平年2.0%)、発病葉率0.2%(平年1.1%)で平年並であった（±）。

(3)　防除対策

＜耕種的防除等＞

被害葉は伝染源となるので、施設外に持ち出し、適正に処分する。

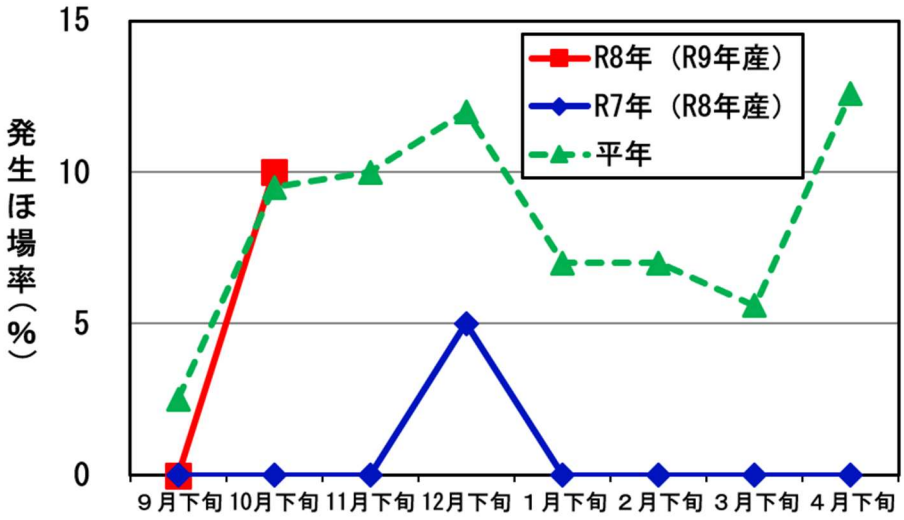
＜防除のポイント＞

ア　本病は、発病初期には葉裏に発生しやすいため、葉裏をよく確認し、早期発見に努める。

イ　予防防除と発病初期の防除に重点をおき、薬液が葉裏や新芽にも十分にかかるよう古葉を除去し、丁寧に散布する。

ウ　アゾキシストロビン剤（アミスター）は耐性菌の発生が確認されているため、効果が劣る場合は他剤に切り替える。

エ　薬剤耐性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



イチゴうどんこ病の発生推移

2　アブラムシ類

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	やや少	少	発生初期

(2)　予報の根拠

ア　10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率20.0%（平年27.5%）、寄生株率1.3%（平年5.9%）で平年に比べやや少なかった（－）。

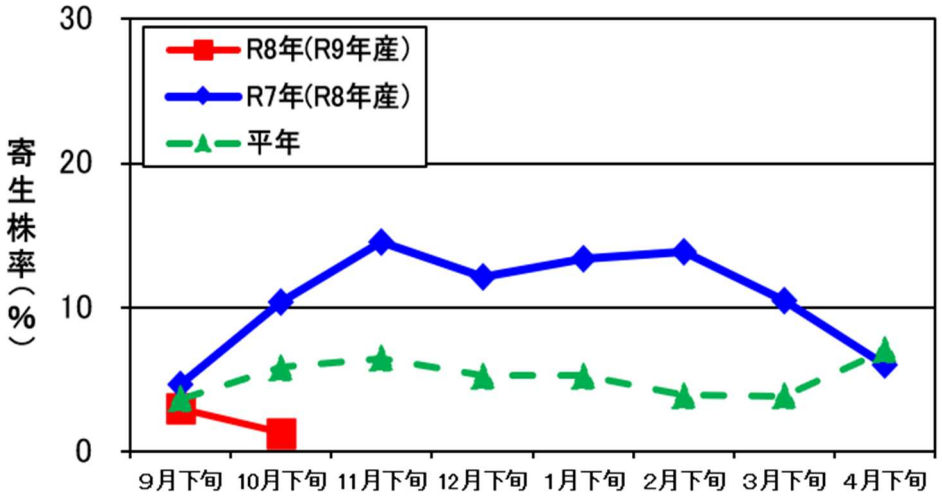
イ　気象予報では、気温は高い（＋）。

(3)　防除対策

＜防除のポイント＞

ア　薬剤散布時は、葉裏までムラなくかかるよう十分な量の薬液を散布する。

イ　薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



イチゴのアブラムシ類の発生状況

3　ハダニ類

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	少	少	発生初期

(2)　予報の根拠

ア　10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%（平年22.6%）、寄生株率0%（平年7.6%）で平年に比べ少なかった（－）。

イ　気象予報では、気温は高い（＋）。

(3)　防除対策

＜防除のポイント＞

ア　ほ場をよく観察し、発生を認めたら直ちに防除を行う。

イ　薬剤防除の前には、薬剤が葉裏まで十分かかるように下葉を除去する。また、除去した下葉は、ほ場外に持ち出し適正に処分する。

ウ　気門封鎖剤を使用する場合は、その多くがハダニ類の卵には効果が低く、残効性がないため、７～10日間隔で散布する。

エ　薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。化学農薬に対する抵抗性が発達しているため、散布後に効果を確認し、十分な効果が認められない場合は、気門封鎖剤を中心に防除を行う。

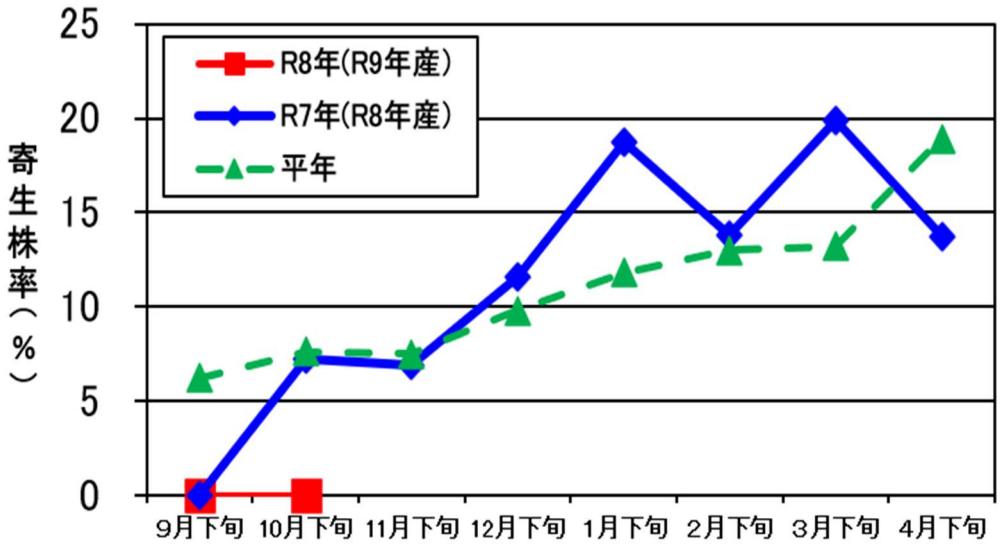
オ　天敵（ミヤコカブリダニ）は次のことに注意して使用する。

（ア）ハダニの発生前、または天敵に影響の少ない薬剤でハダニ類の密度を低下させた後、放飼する。

（イ）天敵を放飼した後は、天敵に影響の少ない薬剤（マイトコーネ剤、ダニコング剤、スターマイト剤等）を使用する。

（ウ）硫黄のくん煙は１日２時間程度とする。

カ　開花期以降の薬剤散布は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。



イチゴのハダニ類の発生推移

野菜全般

令和8年10月6日付け令和8年度農作物病害虫発生予察技術資料第7号(野菜類のチョウ目害虫の防除の徹底について)参照

https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/253665.pdf

1　ハスモンヨトウ

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	少	若齢幼虫期

(2)　予報の根拠

ア　10月下旬のキャベツの巡回調査では、発生ほ場率91.7%（平年65.0%）、寄生株率9.5%（平年8.4%）で平年並であった（±）。

イ　10月下旬のイチゴの巡回調査では、発生ほ場率30.0%（平年18.1%）、寄生株率2.6%（平年0.8%）で平年に比べ多かった（＋）。

ウ　9月21日～10月20日のフェロモントラップ（県内5か所）の誘殺数は、9,759頭(平年8,271頭)で平年に比べやや多かった（＋）。

エ　気象予報では、気温は高い、降水量は平年並か多い（±）。

(3)　防除対策

＜耕種的防除等＞

黄褐色の毛に覆われた卵塊や若齢幼虫が集中した葉を見つけた場合は捕殺する。

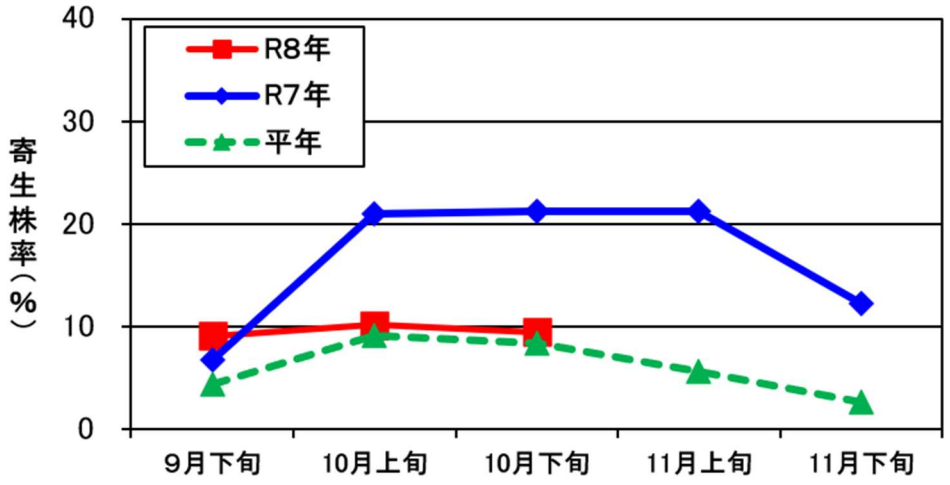
＜防除のポイント＞

ア　ほ場をよく観察し、発生が認められた場合には直ちに防除を行う。

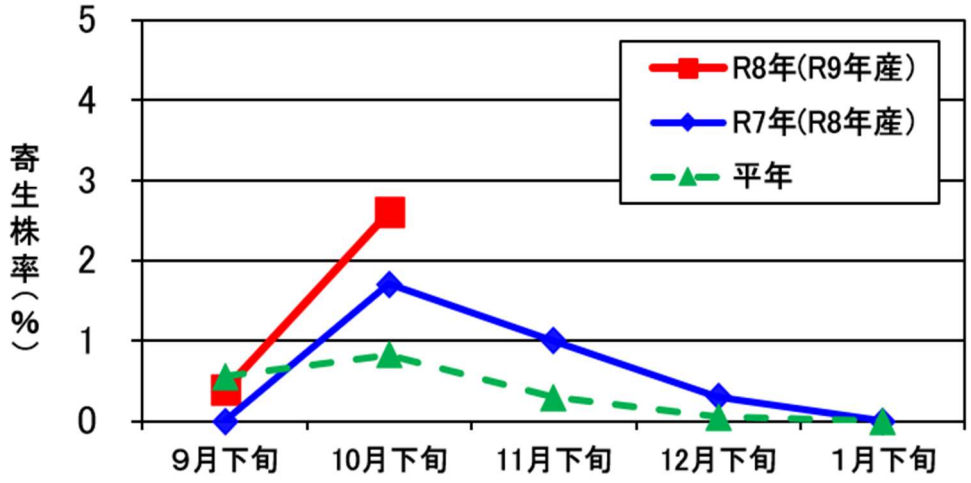
イ　施設栽培では、葉の裏以外に鉄骨パイプ等の高い位置に産卵することが多いので、施設内もよく観察する。

ウ　多くの薬剤に抵抗性が発達しており、特に中齢から老齢幼虫は薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底する。

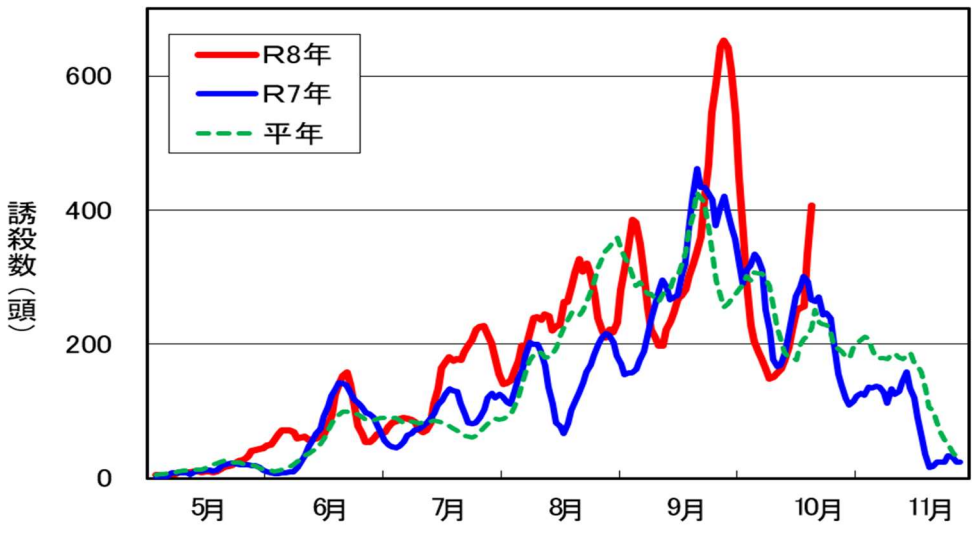
エ　薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。
令和7年度薬剤感受性検定の結果は以下を参照。
https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22322.html



キャベツのハスモンヨトウの発生状況



イチゴのハスモンヨトウの発生状況



フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ誘殺数（県内5カ所合計：移動平均）

2　オオタバコガ

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	前年並	若齢幼虫期

(2)　予報の根拠

ア　10月下旬のキャベツの巡回調査では、発生ほ場率66.7%（平年30.0%）、寄生株率5.0%（平年1.1%）で平年に比べ多かった（＋）。

イ　10月下旬のイチゴの巡回調査では、発生ほ場率0%（平年2.5%）、寄生株率0%（平年0.1%）で平年並であった（±）。

ウ　気象予報では、気温は高い、降水量は平年並か多い（±）。

(3)　防除対策

＜耕種的防除等＞

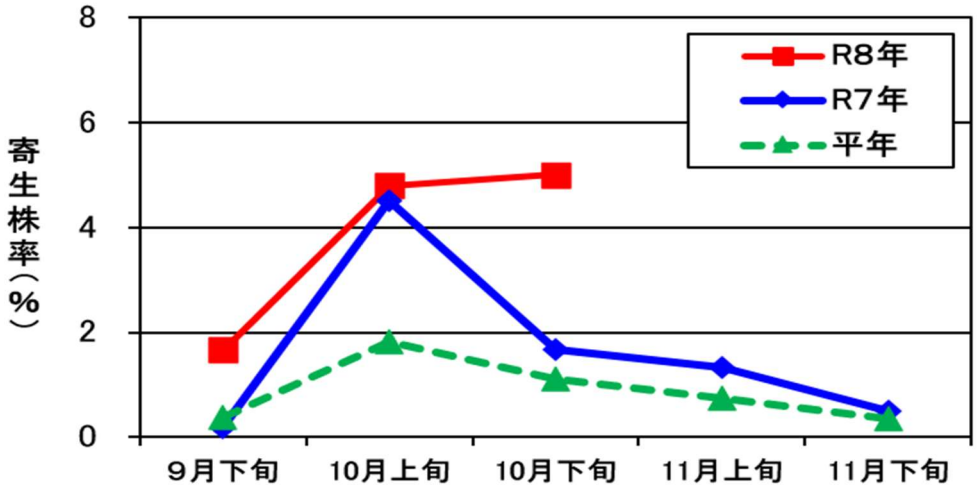
幼虫は見つけ次第捕殺する。

＜防除のポイント＞

ア　定期的にほ場をよく観察し、発生が認められた場合には直ちに防除を行う。

イ　中～老齢幼虫はハクサイやキャベツの結球部に食入するので、若齢幼虫時の防除を徹底する。

ウ　薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



キャベツのオオタバコガの発生推移

3　シロイチモジヨトウ

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	少	若齢幼虫期

(2)　予報の根拠

ア　10月下旬のキャベツの巡回調査では、発生ほ場率41.7%（平年23.3%）、寄生株率2.3%（平年2.1%）で平年並であった（±）。

イ　10月下旬のイチゴの巡回調査では、発生ほ場率0%（平年0%）、寄生株率0%（平年0%）で平年並であった（±）。

ウ　気象予報では、気温は高い、降水量は平年並か多い（±）。

(3)　防除対策

＜耕種的防除等＞

ア　卵塊や被害部位は見つけ次第除去する。

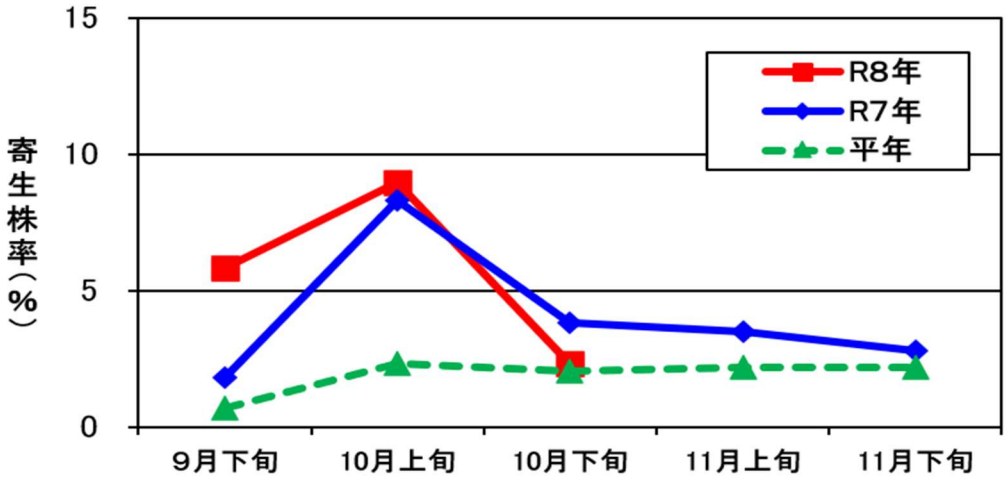
イ　施設栽培では、開口部に防虫ネット(目合い４㎜以下)を設置し、成虫の侵入防止に努める。

＜防除のポイント＞

ア　定期的にほ場をよく観察し、発生が認められた場合には直ちに防除を行う。

イ　薬剤散布後も、被害の拡大が認められる場合には、追加防除を実施する。

ウ　薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



キャベツのシロイチモジヨトウの発生状況

【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	予想発生量	現況		発生ほ場率		備考
			平年比	前年比	本年(%)	平年(%)	
キャベツ	ウワバ類	やや多	やや多	少	41.7	30.0	
イチゴ	アザミウマ類	多	多	多	71.4	19.1	

Ⅲ　参考

1　予報の見方

(1)　病害虫発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

ア　平年比

多	やや多いの外側10％の度数の入る幅
やや多	平年並の外側20％の度数の入る幅
平年並	平年値を中心として40％の度数の入る幅
やや少	平年並の外側20％の度数の入る幅
少	やや少ないの外側10％の度数の入る幅

注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる）

イ　前年比

多	平年比の５段階評価で区分し、前年の評価より多い発生
少	〃　　前年の評価より少ない発生
前年並	〃　　前年の評価と同等の発生（上記２項目を除くもの）

(2)　病害虫発生時期の基準（原則として過去10年間の発生時期と比較）

早　い	過去10年間の平均値より６日以上早い
遅　い	〃　　より６日以上遅い
やや早い	〃　　より３～５日早い
やや遅い	〃　　より３～５日遅い
平年並	〃　　を中心として前後２日以内

(3)　予報根拠における発生要因の評価基準

＋	発生を助長する要因
±	発生の助長及び抑制に影響の少ない要因
－	発生を抑制する要因

2　気象予報

(1)　概要

１か月気象予報（10月29日福岡管区気象台発表）

予　　報	低　い（％） 少ない	平年並（％）	高　い（％） 多　い
気　　温	１０	３０	６０
降 水 量	２０	４０	４０
日照時間	４０	３０	３０

週ごとの気温傾向

予　　報	低 い（％）	平年並（％）	高 い（％）
１ 週 目	１０	３０	６０
２ 週 目	２０	４０	４０
３～４週目	１０	３０	６０